

日本グループ・ダイナミクス学会会報

ぐるだい

JGDA
ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/index-j.html>

第33号
(2008年2月15日)

発行所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院教育発達科学研究科 吉田俊和研究室
日本グループ・ダイナミクス学会
e-mail: sec-general@groupdynamics.gr.jp
発行人：吉田俊和 編集担当：西田公昭

《 目 次 》

- § 第55回大会へのご案内：浦光博 …………… 1
- § アジア社会心理学会第7回大会に参加して：五十嵐祐 …………… 2
- § アジア社会心理学会（AJSP）への登録について：結城雅樹 …………… 2
- § 三隅賞の選考結果と結果のご報告：山口勲…………… 4
- § 日本の社会心理学会紹介
 - ◆関西社会心理学会（KSP）：木村昌紀 …………… 5
- § 追悼文…………… 6
 - ◆末永俊郎先生：安藤清志
 - ◆廣岡秀一先生：大坊郁夫
- § 事務局からのお知らせとお願い／広報担当からのお知らせ／諸連絡先 …… 7

★★ 第55回大会へのご案内 ★★

大会準備委員長 浦 光博（広島大学）

このたび、日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会を広島大学でお引き受けすることになりました。会場は、東広島キャンパスにある総合科学研究科を予定しています。JR山陽本線の「西条」駅からはバスでおよそ15分、山陽新幹線の「東広島」駅からも車でおよそ15分。自然に囲まれた広大なキャンパスが、みなさまをお待ちしています。

東広島キャンパスやその周辺のことをご存じの会員にとっては、宿泊施設が十分か気になるところかもしれませんが、ご安心ください。両駅周辺は最近急速に発展し、新しいホテルが次々と開業しておりますので、ご不便をおかけすることはないだろうと予想しています。今回の大会では、できる限り学会大会の原点に立ち戻りたいと考えております。それぞれの参加者が興味ある研究発表をじっくりと聞き、十分ディスカッションをする。そのことによって互いが刺激し合い、新たな研究に向けての着想を得る。そのような大会にすべく、大会企画はできる限りシンプルなものにし、個別発表における平行セッションを可能な限り少なくします。

研究発表の形式は、①ロング・スピーチ②ショート・スピーチ③English Session④ポスター発表の4種類です。シンポジウムとしては、若手研究者にとって刺激となるようなものと計画中です。また、会員が自由に企画し、討論できるワークショップも設定いたします。多くの企画を期待しています。

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

なお、大会事務の簡素化を推進するため昨年から導入された、参加申し込みと発表論文の電子登録システムを今大会でも使用します。昨年の実績に基づき、使い勝手を大きく向上させたシステムになっております。同封の書類をご確認いただき、時間に余裕を持って登録作業をお願いしたいと思います。大会に関する最新情報については、WEBページにてご案内いたしておりますので、<http://home.hiroshima-u.ac.jp/gr55/index.html> をご確認ください。

梅雨時の開催となりますが、充実した大会にすべく、関係者一同知恵を絞りながら準備を進めて参ります。多数の会員の参加をお待ち申し上げております。

★★ アジア社会心理学会第7回大会に参加して ★★

アジア社会心理学会第7回大会に参加して

五十嵐 祐（日本学術振興会・大阪大学）

2007年7月25日から28日にかけて、マレーシアのコタキナバルで開催されたアジア社会心理学会第7回大会に参加しました。コタキナバルは東南アジアのリゾート地として有名なだけあり、美しい海岸に面した会場のステラハーバー・リゾートはとても快適で過ごしやすく、気候にも恵まれて、リラックスした雰囲気の中で学会に臨むことができました。

学会には、日本を始め、アジア各国や世界各地から多くの研究者が集まり、活発な議論が行われていたと思います。2年に一度、アジアでこうした国際交流の場を持つことができるのはとても貴重であり、今後も積極的にこの機会を活用して、国外の研究者とのネットワークを築いていくことが重要であると感じました。また、カンファレンスディナーの”Cultural Show”では、マレーシアの民族舞踊を間近で見ることができ、さらに参加者がステージ上で一緒になって盛り上がる姿は大変印象的でした。こうした各国の文化を知ることも、国際学会の楽しみのひとつです。

さて、基調講演では、政治や経済、宗教といった多様なトピックとの関連から社会心理学を捉えようとする興味深いアプローチが試みられ、社会心理学という学問が持つ意義を改めて考えさせられました。また、自分の研究発表では、研究をより深めていく上でのヒントとなるようなアイデアが得られただけでなく、発表後もいくつかの質問を受け、とてもエキサイティングな時間を過ごすことができました。特に、研究発表を通じて将来の共同研究に発展するような有意義な出会いが得られたことは大きな収穫であり、国際学会という場で臆することなく発表することの大切さを、身をもって体験しました。今後は、国際的な研究トレンドを見据え、日本というローカルな殻に閉じこもらないような視点を持つのはもちろん、アジアという枠組みの中でさまざまな文化的背景を持つ研究者との交流を通じて、個々の文化の共通性と多様性を認識し、しっかりとした軸を持って議論を深めていかなければならないという思いを新たにしました。

次回の大会はインドで開催されるとのことですが、また新たな体験ができるのではと今から楽しみです。とはいえ、年々大規模になっていく大会を運営するスタッフの方々のご尽力は大変なものだと思います。こうした目に見えない部分でのサポートに感謝しつつ、アジア社会心理学会が、今後もますます活気あふれる研究者の交流の場となることを願ってやみません。

★★ アジア社会心理学会 (AJSP) への登録について ★★

アジア社会心理学会 (AASP) へのお誘い

結城 雅樹（北海道大学）

アジア太平洋地域における社会心理学研究と応用の促進、学生への教育とキャリアの機会の提供、そして研究者に対する学問的フォーラムの提供、を目指して1995年に設立されたAASPも、今年で12年目を迎えます。

した。着実に世界的なインパクトを増してきている学術誌 Asian Journal of Social Psychology (AJSP) をグルダイと共同で公刊、また急速に参加者を増やしている国際大会を2年ごとに開催し、将来国際的な活躍を目指す大学院生向けのサマースクールを行っています。先ごろマレーシアで開催された第7回大会も、アジアにとどまらず世界各国から800名を超える参加者を集め、大変な盛り上がりを見せました。

皆さんも、どうぞこの機会にAASPにご入会ください。

■□■ Q & A ■□■

Q1. おや、私はグルダイ会員だから、自動的にAASP会員となっているのでは？

A. 誤解されている方が多いのですが、そうではありません。皆さんのお手元にAJSPが届いているのは、グルダイとAASPがAJSPを共同刊行しているためです。AASPの会員になるためには、グルダイとは別途入会手続きが必要です。（入会手続きについては、本案内の下部をご参照ください。）

Q2. 学会誌 Asian Journal of Social Psychologyは、どの程度の国際的インパクトを持っているのですか？

A. 1998年よりAASPがグルダイと共同刊行し、Wiley-Blackwell社から発行されている AJSP は、高い質の論文を掲載することにより、急速に国際的インパクトを増やしてきました。2006年のISI Journal Citations Reportsによるインパクトファクターは0.971に達し、全46社会心理学誌中29位を獲得するに至っています。（AJSPについての詳細はこちらをご覧ください→<http://www.blackwell-synergy.com/loi/ajsp>）

Q3. AASPに入会することによるコストとベネフィットにはどのようなものがありますか？

A. グルダイ会員がAASP会員になった場合、会費は無料であり、追加コストは一切ありません。それどころか、以下のような大きなベネフィットがあります。

★☆☆AASP会員の特典★☆☆

1. 大会参加費の会員割引（2007年大会では、特別措置によりグルダイ会員にも割引料金が適用されましたが、2009年大会からはAASP会員のみに限定されます。）
2. Asian Summer School for PhD Social Psychology Students：国際的インパクトのある研究を行い、英語論文を書くための、博士課程学生向けトレーニングセミナー
3. Society for Experimental Social Psychology (SESP)、およびVictoria University of Wellington による英語論文校閲サービス
4. 最新の研究動向や学会情報を掲載したニュースレター配信
5. 会員間の交流に自由に用いることができるメーリングリスト
6. Association for Psychological Science (APS) との提携により、APSの2008年末までの会費が無料（要別途入会手続き）
7. Psychological Science, Current Directions in Psychological Science, Psychological Science in the Public Interest, Perspectives on Psychological Science、およびニュースレターの無料購読

●○○●●入会手続き●○○●●

入会手続きは簡単です。本学会HPから次のメニューをたどると、申込書がダウンロードできます。そちらを指定の宛先までメールで送ってください。

- 1) <http://www.asiansocialpsych.org/>（学会HP）
- 2) 「Membership」（左端のメニュー）
- 3) 「Membership rates」（ページ最下部）
- 4) 「If you are an existing JGDA member and wish to join AASP, click here (pdf 140kb)」をクリック
- 5) pdfファイル「ASIAN ASSOCIATION OF SOCIAL PSYCHOLOGY APPLICATION FORM FOR MEMBERSHIP ((For a member of Japanese Group Dynamics Association ONLY))」の

最下部(p.3)が入会申込書

■■■お問い合わせ先■■■

高井次郎（AASP東アジア担当）jtakai@cc.nagoya-u.ac.jp

★★ 三隅賞の選考結果と結果のご報告 ★★

山口 勸（東京大学）

三隅賞は、本学会のホームページ(http://www.groupdynamics.gr.jp/misumi_award.html)にもあるとおり、長きに渡って日本グループ・ダイナミクス学会の会長を務められ、アジアの社会心理学の発展に多大なる貢献をされた故・三隅二不二教授に敬意を表し、日本グループ・ダイナミクス学会とアジア社会心理学会が合同で設立したもので、アジアの社会心理学に卓越した貢献をしたと看做された、AJSP掲載の論文の著者に贈られます。今回は2005年刊行の第8巻と2006年第9巻に掲載された論文の中から、それぞれもっとも大きな貢献をした論文を選考いたしましたので、その経過をご報告いたします。

まず、選考委員会ですが、規則によりグルダイから三名、AASPから二名が委員として選ばれました。グルダイから東北大学の大淵憲一先生、大阪市立大学の池上知子先生、それに私、とAASPからは、会長を務めるVictoria University of WellingtonのColleen Ward先生および台湾の中央研究院のKuang-Hui Yeh先生です。そして、昨年の三月に委員会が発足し、慣例によって、当時グルダイ会長であった私が委員長を務めました。定められている選考過程(これも上記のサイトに掲載してあります)にしたがって選考を進め、最終選考はAASP第7回大会が開催されたマレーリアのコタキナバルで行いました。ただし、その段階で、私の元指導学生および博士論文審査主任をつとめた研究者の論文が候補に挙がりましたので、私は審査から外れ、議事進行に専念しました。そして、この最終段階で、同点の候補があり、慎重審議を行いました。第9巻に関しては二つの論文の甲乙をつけがたく、同時授賞と決定しました。今回の受賞者と受賞論文を文末に記してあります。

最後に、個人的な感想ですが、今回の選考経過でも明らかなように、AJSPに掲載される論文の質が非常に高くなってきています。そのため、委員会でも意見が分かれ、なかなか授賞論文の一本化ができませんでした。このように掲載論文の質が上昇していることは、たいへん喜ばしいことであり、今後とも上質の論文が掲載され続けること、そして多くのグルダイ会員の論文がその中に含まれることを願っています。

第8巻

Sau-Lai Lee, Chi-Yue Chiu & Tsz-Kit Chan (2005). Some boundary conditions of the expressor culture effect in emotion recognition: Evidence from Hong Kong Chinese perceivers. *Asian Journal of Social Psychology*, 8(3), 224-243.

第9巻

Yuriko Zemba (2006). Responses to organizational harm: Mechanism of blaming managers as proxies for a culpable organization. *Asian Journal of Social Psychology*, 9 (3), 184-194.

Elizabeth A. Hardie, Christine Crichley & Zoe Morris (2006). Self-coping complexity: Role of self-construal in relational, individual and collective coping styles and health outcomes. *Asian Journal of Social Psychology*, 9(3), 224-235.

★★ 日本の社会心理学研究会紹介 ★★

本企画では、日本の国内に数ある社会心理学研究会を紹介します。今回は、JGDA Flash! に最も頻繁に投稿いただいておりますKSP（関西社会心理学研究会）について、大阪大学の木村昌紀先生にご紹介いただきます。

KSP（関西社会心理学研究会）

木村 昌紀（大阪大学大学院人間科学研究科）

大学院に入って間もない頃、その不思議な言葉が耳に止まった—「KSP」。心理尺度？専門誌？それとも統計分析用ソフト？頭の中にクエスチョン・マークが浮かんだが、「まあ、ええわ」と思って忘れてしまった。数ヶ月が過ぎて、その謎が明らかになった。

関西社会心理学研究会、通称KSPは関西を拠点に活動する先生方が中心となって開催している研究会である。その歴史は非常に長く、30年にわたる。月一回のペースで（ただし8月は休み）、会場は特に決まっておらず、各回の発表担当者の持ち回りで行われる。長年蓄積された知見のレビューから最新の研究成果まで、毎回、様々な社会心理学に関連するトピックが発表される。1回あたり2時間半から3時間程度行われるため、時間をかけた討論が可能であり、概念整理や詳細な研究手続きなど普段聞けない情報を得ることができる。研究会では、いわゆる“関西式”と呼ばれる、研究発表と質疑応答の時間を区別しない自由な討論形式で活発なインタラクションが展開される。その中から、新しい研究のアイデアが創発されることもざらにある（時間内に発表が終わらず、懇親会に持ち越されることもよくあるのだが）。

このように、KSPはユニークな研究会だが、特筆すべきはなんといっても会を構成するメンバーであろう。社会心理学、ひいては日本の学術組織を牽引されてきた重鎮の先生方から、斬新な研究結果を活発に発表している中堅や若手の先生方、そしてその背中を見ながら明日の研究者を目指す学生もいる。KSPはメンバー構成において、社会心理学という共通性を土台にしつつ、専門分野と年齢層の多様性が同時に存在している。ゲストとして参加するメンバーも幅広い。KSPで発表したい、それを聴きたい、議論したいというメンバーは、関西のみにとどまらず、関東、中部、四国や中国地方からも集ってくる。“関西”の研究会と聞くと排他的な一枚岩の集団で、きつとなじめないと想像されるかも知れない。しかし実際は、外交的でおしゃべりが大好きな人ばかりなので、はじめて参加される方は質問攻めにあう恐れはあるものの、親しみやすい雰囲気からまた来たいと思うに違いない。

KSPで欠かすことができない最後のポイントは、やはり発表後に催される懇親会である。「学生割引」が適用されるので、院生や学部生にはとても有難い。研究会から持ち越された議論はもちろん、普段はなかなか聞けない裏話や個人的な近況報告など、研究内容にとどまらない人と人との交流がそこにはある（ように思う）。名物先生からのツッコミ（もしかするとボケ？）にはじめは面食らうかも知れないが、慣れてくるとその独特な愛情表現が癖になり、癒されるようになる。そこに集まる人たちは、研究自体はもちろんであるが、何より人間が大好きなのだと思う。KSPにまだいらしたことがない方、先生や院生はもちろん学部生も、「研究会」という響きから、気づかないうちに硬くなった肩の力を抜いて、一度参加してみるのをオススメしたい。

◎ 社会心理学研究会紹介希望募集

本企画では、日本全国の社会心理学研究会の紹介を募集しております。ぜひ紹介してほしいという研究会のメンバーの方は、office@groupdynamics.gr.jpへ原稿をお送りください

★★ 追悼文 ★★

末永俊郎先生を偲ぶ

安藤 清志（東洋大学社会学部）

末永俊郎先生は、平成19年7月8日、肺炎による呼吸器不全のために亡くなりました。86歳でした。ご高齢で2年近くも入院生活を送られていたので皆で心配していましたが、残念ながら再び先生の笑顔を見ることはできませんでした。しかし、翌月21日に「お別れの会」が開催され、会場でたくさんの白い花に囲まれた大きな遺影に接することができました。凜とした中にも優しさが溢れる先生のお顔に懐かしさを感じたのは、私だけではなかったと思います。この会には、ご遺族や大学関係者を中心に100名以上の方々が集まり、先生とご一緒した時代を互いに語り合いました。

とくに、東京帝国大学文学部心理学科で末永先生と共に学ばれた肥田野直先生(昭和18年卒業)、京都大学教育学部で教鞭をとられた時期(昭和25年～30年)に教えを受けた廣田君美先生、東京大学教養学部に移られ助教授として勤務された時期(昭和30年～39年)に助手を務められた杉本敏雄先生、本郷の文学部心理学科(昭和39年～57年)の同僚でいらしゃった大山正先生、末永先生が60歳で東京大学を停年退官された後、日本大学文理学部心理学科に勤務されたとき(昭和57年～平成元年)を共に過ごされた山岡淳先生、帝京大学文学部心理学科での8年間(平成元年～平成9年)同じ研究室で過ごされた鹿取廣人先生が、順番にそれぞれの思い出を語ってくださいました。また、ご家庭での写真も含めて数々をスライドが映し出され、末永先生の生涯が一つのストーリーになって描き出されたような気がしました。お話の中で共通していたのは、末永先生の学問に対する真摯な態度、明晰さ、優しさ、お酒を通じたの楽しい語らいの時…でしょうか。改めて先生の存在の大きさに気づかされた次第です。

私は、末永先生に大学院でご指導を受けた弟子を代表して話をさせていただきましたが、やはり社会行動研究会で先生とお付き合いさせていただいたことが、一番鮮やかな記憶として残っています。この研究会は、先生が東京大学を退官されるのに合わせて始められたもので、毎月、末永先生を囲んで定例会を開催しました。最初は10名足らずでしたが、その後日本大学や立教大学など多くの大学の院生が加わり、次第に活況を呈してきました。100回記念の会合では先生に「社会行動研究の100年：回顧と展望」という演題でご講演いただきましたが、あらためて歴史に対する先生の関心の強さと知識の豊富さに驚かされました。日頃も、個別の研究に注意を向けがちな私たちに対して、それを歴史的にどのように位置づけたらよいのか、何度もお教えいただきました。また、研究会の活動の一環として「社会心理学研究入門」などの本を編集したり、「影響力の武器」、「プロパガンダ」などの翻訳を行いました。それらを題材にしていろいろ話を伺ったのも楽しい思い出になっています。もしかすると、私たちは第142回の定例会まで、20年以上も先生にご指導いただいた幸せな世代というべきかもしれません。「もっといろいろと話を伺っておくべきだった」と悔やむ気持ちは強いのですが、学問的な面にとどまらず、これまで先生にご教授いただいた多くの事柄と学問に対する情熱を後の世代に伝えることを使命と考え、先生への恩返しとしたいと思います。いつも優しく見守ってくださった先生に感謝し、社会心理学がさらに発展することを願いつつ、心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。〔許可を得て『心理学評論』第50巻3号より転載〕

廣岡秀一先生を偲んで

大坊郁夫（大阪大学）

今年6月の本学会大会のシンポジウムでは、一緒するはずでしたが、体調が芳しくなく、検査入院をするのでということで、指定討論は私一人となりました。そう安心できないとは聞いておりましたが、まさかこ

のように早くに別れが来るとはその時は思いもよりませんでした。その後もなかなかその機会がなかったのですが、7月半ば、やっと意を決して、三重県の病院にお見舞いに行かれました。病室に近づくと、沖縄の音楽が静かに聞こえてきました。ゆっくりと心にしみ込んでくるその音楽に落ち着きと懐かしさを感じました。病室には長女の様子さんもおられました。病状が芳しくないことが分かってから、家族のどなたかが泊まり込んでおられたとのことでした。ベット脇には家族の方々の何枚もの写真、CDがたくさん置かれていました。回復が難しいとのことを聞いていたので、廣岡先生に多くの視線を合わせるのが辛く、ついお嬢さんによけいに視線を向けてしまいました。もっとしっかりしたことをお話ししなければという思いを持ちながら、そうもできませんでした。廣岡先生が大学院生時代に私が初めてお会いした時のこと、感激家であることなどを懐かしくお話し、後は、お嬢さんの専攻のこと、子どもは親の期待になかなか応えてくれないものなどと、つい世間話になってしまいました。廣岡先生の声は、昔のように力強いものではなかったですが、昔話をする、冗談交じりの口調になったり、笑い顔にもなってもらえました。帰り際、握手をしましたが、その手はあまりに冷たく、無性に辛くなり、病室を出てしまいました。

廣岡先生は、いつもじっくり考え、しっかりと生きてきました。多くの人がご存知でしょうが、先生のホームページ<http://www.s-hirooka.com/blog.html> は有名です。心理尺度（項目）データベースは、多くの学生、社会心理学研究者から利用されてきました。そのみならず、文献検索、社会心理学、心理学のトピックスを取りあげて解説されるなど、その情報量の多さに驚かされます。そして、blogでは、現代社会のこと、教育のことについて、リアルタイムに批評や意見を呈されています。世の中をなんとか住みやすい、密なる連携のできるものにしたいとの思いからの多様な発信をされてきたのです。

さらに、本学会では広報担当の常任理事として活躍され、2007年4月からは日本社会心理学会でも常任理事をされ、学会HPの再編、広報活動のあり方について斬新な改編をお考えになっておられました。その緒に就かれたところでの訃報、無念であります。

先生の書き込み最後となった7月15日のブログに、「ブロッグ終了 明日は私の50回目の誕生 家族全員が集まってくれています。ところで、そう言うことは全く別の理由で、このブログを永久に凍結させていただきます。ご愛読いただいた多くの方、ありがとうございました。」とあります。人生の幕引きの挨拶をこのようにされるとは、見事としか言いようがありません。告別式場に流れた音楽は、先生が自ら選曲され、お嬢さんと編集されたものであることも見事なこと（その一曲に、お見舞いに行かされた折に耳にした、夏川りみさんの「童神」がありました）。僅か50歳と1月弱で人生を終えられた廣岡秀一先生に、あまりに早過ぎたですとの苦言と、われわれに残してくれた思いにお礼を申し上げます。ゆっくりとやすんでください。

★★ 事務局からのお知らせとお願い ★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集

「実験社会心理学研究」には、グループ・ダイナミックスや社会心理学に関連する特集を掲載します。特集は、読みごたえのある論文3編程度で構成します。特集についての企画をお持ちの会員は、企画の趣旨、特集論文の概要等をまとめた企画書（A4版1～2枚程度）を、編集委員長に提出して下さい。企画の採択については、常任編集委員会で審議、決定します。特集論文の審査手順など詳細については、学会ホームページに掲載してあります。URLは、<http://www.groupdynamics.gr.jp/tokusyu.htm>です。ご参照ください。

なお、「実験社会心理学研究」は、特集の掲載によって、一般投稿論文の掲載に大幅な遅滞が生じないことを重視しています。企画を提出される方は、この点をお含みおき下さい。

◆実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

☆☆ 広報担当からのお知らせ ☆☆

◆JGDA_Flash：グルダイでは【日本グループ・ダイナミックス学会 広報（速報）メールマガジン】（JGDA_Flash）を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員のみなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約600名です。グルダイ会員のみなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思います。登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、以下のアドレスのグルダイ広報メールマガジン運営担当マスターにお願いいたします。

office@groupdynamics.gr.jp

また、新刊案内や研究会案内等のニュース記事も大歓迎いたします。同アドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、以下のWEBで閲覧可能です。

<http://www.groupdynamics.gr.jp/cgi-bin/magbbs.cgi>

☆☆ グルダイ学会関係連絡先 ☆☆

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

◆【事務支局】住所・所属変更、その他お問い合わせは、

中西印刷株式会社 学会部 （日本グループ・ダイナミックス学会担当：岡田）

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 e-mail: jgda@nacos.com

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見は、

「実験社会心理学研究」編集事務局

広島大学大学院総合科学研究科行動科学講座 浦研究室内

〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1

Tel/Fax: 082-424-6576 e-mail: jjesped@hiroshima-u.ac.jp

◆ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報などは、

静岡県立大学看護学部 西田公昭研究室

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 Fax: 054-264-5099

E-mail: office@groupdynamics.gr.jpまでお送りください。

また、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

◆学会事務局

愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科 斎藤研究室

TEL: 0561-62-4111（代表）／FAX: 0561-63-7734（学科準備室）

E-mail: sec-general@groupdynamics.gr.jp

◎（編集後記）製造日の改ざんから農薬混入問題など企業集団のモラルが問い直されるこの頃ですね。こういった現象を引き起こす集団の研究をテーマにするのも本学会の社会貢献につながるのではないのでしょうか。さて年度末です。いろんな雑用にまみれて、研究どころではない方も多いと思いますが、風邪などひかずに頑張りましょう。なお、もうじき、本学会のWEBサイトが完全リニューアルします。ご期待ください。（編集子）
